

製品名: PC-PLD1 (リン酸化 Ser561) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05219**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PLD1
別名	PLD1; Phospholipase D1; PLD 1; hPLD1; Choline phosphatase 1; Phosphatidylcholine-hydrolyzing phospholipase D1
遺伝子 ID	5337.0
SwissProt ID	Q13393
免疫原	抗血清は、Ser561 のリン酸化部位周辺のヒト PLD1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 527-576

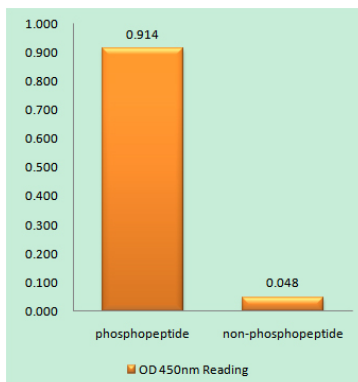
背景

この遺伝子は、ホスファチジルコリンの加水分解を触媒し、ホスファチジン酸とコリンを生成するホスファチジルコリン特異的ホスホリパーゼをコードする。この酵素は、シグナル伝達および細胞内輸送において役割を果たしている可能性がある。選択的スプライシングにより、触媒活性と調節活性の両方を持つ複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2011年9月]触媒活性: ホスファチジルコリン + H₂O = コリン + ホスファチジン酸。酵素調節: ホスファチジルイノシトール4,5-ビスリン酸およびホスファチジルイノシトール3,4,5-トリスリン酸によって刺激され、ホスホキナーゼ C- α 、ADP リボシル化因子-1 (ARF-1) によって活性化され、また、GTP 結合タンパク質 (RHO A、RAC-1、CDC42) によっても、ある程度活性化される。オレイン酸によって阻害される。機能: シグナル伝達、膜輸送、有糸分裂の調節など、多くの細胞経路における重要なステップとして関与する。核周小胞内膜輸送の調節に関与している可能性がある。オンライン情報: ホスホリパーゼ D エントリー、類似性: ホスホリパーゼ D ファミリーに属する。類似性: PH ドメインを1つ含む。類似性: PX (phox 相同) ドメインを1つ含む。類似性: PLD ホスホジエステラーゼドメインを2つ含む。サブユニット: PIP5K1A と相互作用する。組織特異性: 膵臓と心臓に豊富に発現し、脳、胎盤、脾臓、子宮、小腸でも高レベルで発現する。

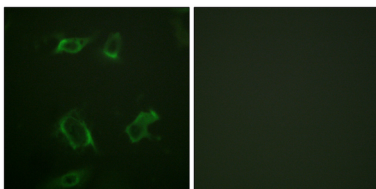
研究分野

グリセロリン脂質代謝、エーテル脂質代謝、エンドサイトーシス、Fc ガンマ R を介した貪食、GnRH、がんにおける経路、膵臓がん、

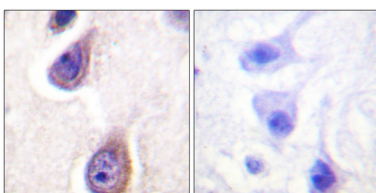
画像データ



PLD1 (リン酸化 Ser561) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



PLD1 (リン酸化 Ser561) 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



PLD1 (リン酸化 Ser561) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。